令和９年度

小203　練馬区立豊玉小学校

学力向上を図るための全体計画

東京都教育目標
子供たちが、知性、感性、道徳心や体力をはぐくみ、人間性豊かに成長することを願い、人間の育成に向けた教育を重視する。
練馬区教育目標
人間尊重の精神を基調とし、学校・家庭・地域社会との緊密な連携のもとに、心身ともに健康でで知性に富み、人間性豊かな子供の育成を図る。

教育目標

豊小プライド

自立　自分の力で行動する子
創造　自分から創り出す子
共生　違いを認め尊重する子

児童の実態

- ❏ 真面目で素直な児童が多い一方、自己肯定感を高める必要がある。
- ❏ 知識・技能、学ぶ意欲、体力等に個人差がある。
- ❏ 自分の考えを自信をもって伝え、他者と関わる力を伸ばす必要がある。

学校経営方針（学力向上に関わる要点）　主体的に学び、確かな学力の向上を図る教育の推進

- ❏ 学年段階に応じて基礎・基本の定着を図り、つまずきを把握して個に応じた指導・支援を行う。
- ❏ 体験活動を重視し、学習の目的や課題を児童自身が捉え、解決を目指す学習を展開する。
- ❏ 「教師主体」から「子ども主体」へ転換し、めあて・対話（ペア、トリオ、全体）・振り返りを充実させる。
- ❏ 肯定的な声かけと認め合いを基盤に、ICT等の効果的な活用と分かる・楽しい授業の実現を図る。

各教科の指導の重点

- ❏ めあてを自分事として捉え、見通しをもって学習する。
- ❏ 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。
- ❏ 根拠をもって考えを伝え、他者との対話で思考・判断・表現を深める。
- ❏ 児童の理解や習熟に応じた支援と発展的な学習を工夫する。

生活科・総合的な学習の時間の指導の重点

- ❏ 生活・体験・地域との関わりから自ら課題を設定し、探究する。
- ❏ 情報を収集・整理・分析し、見通しをもって解決を図る。
- ❏ 振り返りを基に学習を修正し、次の活動につなげる。
- ❏ 目的や相手に応じてまとめ・表現し、多様な考えを理解する。
- ❏ 学んだことを自分の生活や社会と結び付けて生かす。

本校における「確かな学力」

・基礎的・基本的な知識及び技能
・思考力・判断力・表現力
・学びに向かう力・学習を調整する力

今年度の重点

基礎・基本の確実な定着を図るとともに、児童が自ら問いをもち、他者と学び合い、振り返りを通して学びを調整する「自律的な学び手」を育成する。

❏ 学ぶ意欲

自己肯定感を高め、よりよい関係性を築く力・自ら学び合い高め合う力を育むことで、児童自らが主体的に学習に取り組んでいけるようにする。

❏ 問題解決力・学び方

児童一人一人がめあて達成のために必要な情報を、学習資料として与えられ、児童相互に確認や助言をし合いながら、児童生徒用タブレット端末等を効果的に活用し、主体的に学習できるようにする。

【目指す姿】
自ら問いをもち、見通し・選択・協働・振り返りを通して学び続ける児童

道徳教育の指導の重点

- ❏ 自他の生命を尊重し、思いやりと豊かな人間性を育む。
- ❏ 多様な価値観に触れ、相手の立場で多面的・多角的に考える。
- ❏ よりよい判断をして行動し、粘り強くやり遂げる態度を育む。

特別活動の指導の重点

- ❏ 学級会等の話合いで合意形成し、自ら決めて実践する。
- ❏ 児童会・委員会・異年齢活動を通じて、主体的に学校生活を創る。
- ❏ 集団の一員として協力し、互いのよさを生かして活動する。

学習環境づくりの重点

- ❏ 話を最後まで聴き、考えを安心して伝え合う学習集団を育てる。
- ❏ 肯定的な声かけと児童相互の認め合いを重ねる。
- ❏ 自分の取組を振り返り、よりよく行動する態度を育む。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・学びの継続・深化	教育課程編成上の工夫 小中一貫教育の視点	校内における 研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との 連携の工夫
導入の工夫 ❏ 単元の内容を自分事として捉え、考える必然性・必要感が生まれる課題を設定する。 **学びの継続・深化** ❏ 単元を見通し、粘り強く取り組める学習活動や選択の場を工夫する。 ❏ ペア・トリオ・全体の対話で、互いの考えを広げ深める。 ❏ 実物・体験・ICTを目的に応じて組み合わせる。 ❏ めあて・板書・ノート・振り返りを関連付ける。	❏ 児童の実態を踏まえ、学年内で指導内容と支援方法を共有する。 ❏ 中・高学年の教科担任制と算数少人数指導を生かし、専門性と個に応じた指導を充実させる。 ❏ 授業内での個別支援や習熟に応じた課題を工夫する。 ❏ 小中一貫教育の視点で９年間の学びのつながりを意識する。 ❏ 読書活動・体験活動等を計画的に位置付ける。	❏ 「自律的な学び手」の育成に向け、生活科・総合的な学習の時間を中心に授業改善を進める。 ❏ 授業公開・協議を通して、児童の学ぶ姿を基に手立てを検証する。 ❏ 学年・専科・加配教員が実践や教材を共有し、指導の質を高める。 ❏ 日常の授業観察と研修内容を実践に還元する。	❏ 単元のねらいと評価規準を明確にし、学習活動と関連付ける。 ❏ 発言・ノート・作品・学習履歴等から児童の変容を多面的に捉える。 ❏ 児童の自己評価・振り返りを次の学習に生かす。 ❏ 端末を活用して理解状況を把握し、支援や課題を調整する。 ❏ 学力調査・アンケートの結果を授業改善に結び付ける。	❏ 学校だより・HP等で授業改善や児童の学びの姿を具体的に発信する。 ❏ 地域コーディネーターや地域人材・施設を探究的な学習に生かす。 ❏ 学習成果を地域に発信し、社会とのつながりを実感させる。 ❏ 学校関係者評価を授業改善に生かす。